

## 【今週の注目疾患】

### 【インフルエンザ】

2020年第1週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は、定点当たり8.96（人）であった。年末年始の学校・職場等の休暇が明けた今後の動向に注意が必要である（図1）。

図1: 県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの  
定点当たり報告数の推移(シーズン別)

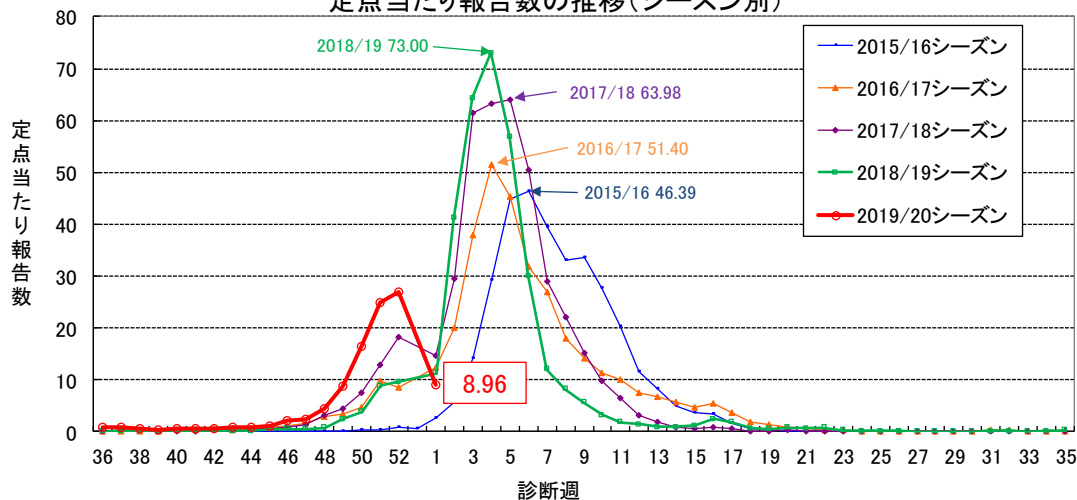
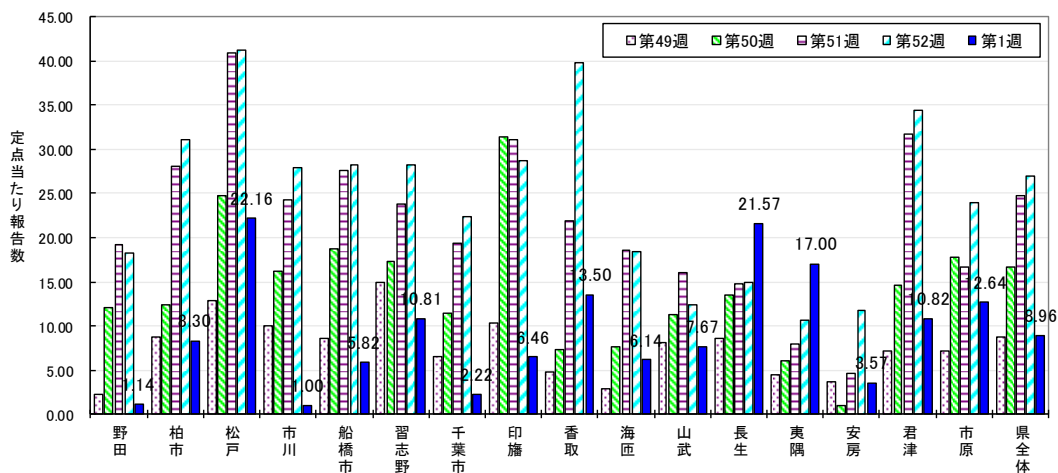


図2: 直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数推移(保健所別)



第1週に報告の多かった上位3保健所管内は、松戸(22.16)、長生(21.57)、夷隅(17.00)であった(図2)。また、年齢群別報告割合は40代(17.8%)、30代(14.8%)、0～4歳(11.8%)で高かった。小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、1,797例中A型1,761例(98.0%)、B型36例(2.0%)、A and B型0例(0.0%)、A or B型0例(0.0%)であり、2019/20シーズン合計では、20,594例中A型20,207例(98.1%)、B型364例(1.8%)、A and B型17例(0.1%)、A or B型6例(0.0%)となった。

今シーズンの直近の北半球におけるインフルエンザの流行は、国内においては、A(H1N1)pdm09が主流となっており、韓国、台湾といった東アジア地域でもA(H1N1)pdm09が主流となっ

ているが、中国では A(H3)が主となっている。シンガポール、タイやベトナムといった東南アジア地域においても A(H1N1)pdm09 が主となっている。北米では B 型の検出頻度が高くなっており、アメリカは B(ビクトリア系統)が主であり、カナダでは A 型と B 型がほぼ同程度の検出頻度となっている。ヨーロッパでは国により異なり、A 型インフルエンザにおいてもスペインやフランスでは(A(H1N1)pdm09)の割合が高く、イギリスやアイルランドでは A(H3)の割合が高い。また、ポルトガルやロシアでは B 型の割合が高くなっている。B 型インフルエンザにおいては、今シーズンは B(山形系統)ではなく、B(ビクトリア系統)が世界各地域において主流となっている。

県内でのインフルエンザの流行は、例年 1 月下旬～2 月上旬に最も患者報告が多くなる。予防接種、飛沫感染対策としての咳エチケット(有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュや腕の内側などで口や鼻を覆う等の対応を行うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。

#### 参考・引用

WHO FluNet:

[https://www.who.int/influenza/gisrs\\_laboratory/flunet/en/](https://www.who.int/influenza/gisrs_laboratory/flunet/en/)

Joint ECDC-WHO/Europe weekly influenza update Flu News Europe:

<http://flunewseurope.org/>